平成２１年度

「基礎・基本」定着度調査結果（概要）

（平成２２年１月調査）

平成２２年３月

鹿児島県教育委員会

平成２１年度「基礎・基本」定着度調査について

１　調査の概要

（１）調査の趣旨・目的

基礎的・基本的な内容及びそれらを活用する力について，県内の全公立小・中学校を対象に調査を行い，客観的なデータに基づき定着度の状況を把握することにより，各学校等での指導法改善の取組を支援し，児童生徒の基礎学力の向上を図る。

（２）調査の重点

昨年度に引き続き，選択式の設問に加え，知識・技能の活用に関する記述式の設問などを一定数出題した上で，昨年度と同様の難易度とし，目標平均通過率を７０％に設定した。

（３）調査の実施日

平成２２年１月１４日（木），１５日（金）

（４）対象学年，対象教科

小学校第５学年（国語，社会，算数，理科）
中学校第１学年（国語，社会，数学，理科，英語）
中学校第２学年（国語，社会，数学，理科，英語）

２　結果の概要

○　各教科の傾向としては，個別の分野では一定の改善も見られたものの，全体的には，昨年度同様に下記の状況が継続している。
- 小学校段階の通過率は概ね安定しているが，中学校段階では定着が不十分な教科，学年がある。
- 基本的な知識・技能については定着が見られるが，それらを活用する力を問う問題（社会的な思考を問う問題，数学の文章問題，英作文など）への対応が不十分である。

○　全１４調査中，目標の平均通過率を達成したものが５調査，達成と同視できるものが２調査であり，さらなる改善の必要がある。

３　各教科の平均通過率等

		Ｈ２１	Ｈ２０
国語	小５	73.3	76.8
	中１	72.4	63.7
	中２	73.7	66.1

○　「聞く」「書く」「読む」「言語事項」の各領域等において，すべての学年で基本的な知識・技能が概ね定着している。
○　具体的な「言語活動」場面を想定し，思考を整理して表現する力の定着を図る必要がある。

		Ｈ２１	Ｈ２０
社会	小５	69.1	72.0
	中１	63.3	65.6
	中２	58.9	62.6

○　小学校は概ね定着しているが，中学校については課題がある。
○　資料を効果的に活用し，社会的事象の特色や関連を解釈・説明する力に課題があり，思考力，判断力，表現力を育てる取組が必要である。

		Ｈ２１	Ｈ２０
算・数	小５	66.0	73.9
	中１	69.7	68.0
	中２	63.2	65.7

○　簡単な四則計算や図形の性質に関する問題では成果がみられるが，事象の本質的理解が不十分な面があり，小５では，同内容についての出題方法を変えた設問などで通過率が低下した。
○　数量の規則性を文字で表すことや反比例の概念，文章問題の理解に課題があり，数学的な見方や考え方を育てる必要がある。

		Ｈ２１	Ｈ２０
理科	小５	73.6	73.7
	中１	57.0	67.3
	中２	59.5	62.6

○　移行期に伴う新内容について，小学校では概ね定着しているが，中１では事象の本質的な理解が不足している。
○　記述による説明，作図，グラフの活用等の習熟とともに，学習内容と生活の中の事象とを関連付け，実感を伴った理解を図る必要がある。

		Ｈ２１	Ｈ２０
英語	小５	－	－
	中１	70.0	72.5
	中２	62.5	60.0

○　「聞く」「読む」領域において，概要・要点の把握等の理解する力は概ね定着している。
○　場面に応じて適切に書く力が不足している。音声による文構造等の練習を十分に行った上で，文字による正確な表現の定着を図る必要がある。

４　調査結果の活用（今後の対応）

今後，本調査の更に詳細な分析結果や指導法改善策をまとめた本冊子を，県内の全小中学校に配布するとともに，各段階の教職員研修等で集中的な活用を行うことなどにより，県下全体での課題認識の共有と取組を推進する。

また，一部に改善はみられたものの，昨年度からの課題が依然多くの点で継続している事態を踏まえ，平成２１年度中に，本県独自教材「鹿児島ベーシック」（中学校用）の緊急改訂を行い，各学校における調査結果への対応を積極的に支援する。

目　　次

○　結果概要
○　本調査結果による指導法改善について　・・・・・・・・・・・・・・・　１
○　平成２１年度「基礎・基本」定着度調査結果（概要）の見方　・・・　２

Ⅰ　調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

Ⅱ　各教科の結果
１　各教科の平均通過率　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

２　各教科の内容・領域及び観点別の平均通過率
(1)　国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
(2)　社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
(3)　算数・数学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
(4)　理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
(5)　英語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

３　各設問の分類と平均通過率
(1)　国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
(2)　社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７
(3)　算数・数学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
(4)　理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３３
(5)　英語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６

４　各受検者の正答数の分布
(1)　一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３８
(1)　国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９
(2)　社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０
(3)　算数・数学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１
(4)　理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４２
(5)　英語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４３

５　地区別の平均通過率　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４４

本調査結果による指導法改善について

「基礎・基本」定着度調査は，児童生徒の基礎・基本の定着のため，客観的なデータに基づく定着度の把握及び指導法改善をねらいとしています。

各学校では，調査直後から，自校の結果を踏まえた補充指導や次年度の指導計画の見直し等の取組が行われていると思います。

さらに，調査票の問題や本資料を活用し，指導法改善を進めてください。

○　調査票

本調査で出題した問題は，児童生徒が身に付けてほしいと考える学力について，具体的に示したものです。

各学校においては，**今回の調査票の問題を授業の終末や単元末の評価場面などで活用し，**定着度の把握や個別指導に役立ててください。

○　特に定着を図りたい問題

本調査結果を受け，学力の中心的な内容，領域を取り上げました。これまでの調査において，定着度が高まってきている傾向がある一方で，現状が変わらないものも見られます。

特に，**改善が急務である問題を精選して，改善策を提案しています**ので，これらを参考にして確実な定着を図るように努めてください。

○　各設問ごとの通過率

今回の調査結果で，特に通過率が５０％未満だった問題について明示しています。**各学校の実態と比較して，通過率の低かった内容を確認**してください。

また，**その内容については，指導計画等を重点化することにより，授業の指導法改善を図るとともに，演習や個別指導などの補充指導を充実させることが大切**です。

○　鹿児島ベーシック，鹿児島チャレンジ

鹿児島県教育委員会では，過去の調査のデータを踏まえ，学校や家庭の学習を支援する学習ガイド「鹿児島ベーシック」（中学校１，２年生用）「鹿児島チャレンジ」（小学校５，６年生）を作成し，県教育委員会のウェブページに掲載しています。

これらの問題を授業で活用したり，解説を指導法改善の参考にしたりしてください。なお，平成２２年度は，調査結果を踏まえ「鹿児島ベーシック」「鹿児島チャレンジ」の改訂版を作成する予定です。

「基礎・基本」定着度調査結果（概要）の見方

本書は，鹿児島県教育委員会が各市町村教育委員会及び各小・中学校の協力を得て，平成２２年１月に実施した平成２１年度「基礎・基本」定着度調査の結果概要です。

１　本書の構成について

本書は，次のような構成になっています。

Ⅰ　調査の概要
Ⅱ　各教科の結果概要
　１　各教科の平均通過率（県全体）
　２　各教科の内容・領域別及び観点別の平均通過率（県全体）
　３　各設問の分類と平均通過率
　４　各受検者の正答数の分布
　５　地区別の平均通過率

２　本書の活用について

○　調査の目的や実施の概要を知りたいとき	「Ⅰ　調査の概要」　･･･P４
○　各教科の定着状況の概要を知りたいとき	「Ⅱ　各教科の結果概要･･･P５ （１　各教科の平均通過率）」
○　各教科の定着状況を内容・領域別及び観点別に詳しく知りたいとき	「Ⅱ　各教科の結果概要･･･P６～22 （２　各教科の内容・領域別，観点別の平均通過率） （５　地区別の平均通過率）」
○　各教科の設問毎の分類と平均通過率を知りたいとき	「Ⅱ　各教科の結果概要･･･P 25～37 （３　各設問の分類と平均通過率）」
○　各受検者の正答数分布を知りたいとき	「Ⅱ　各教科の結果概要･･･P 39～44 （４　各受検者の正答数の分布）」

３　本書に使われている用語について

○　「通過率」

各設問ごとに正答した児童生徒の数を調査実施児童生徒数で除したものを「通過率」とし，分類上，その平均をとったものを「平均通過率」としています。

Ⅰ　調査の概要

１　趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容及びそれらを活用する力について，全県的な調査を行い，客観的なデータに基づき定着度の状況を把握することにより，各学校等での指導法改善の取組を支援し，児童生徒の基礎学力の向上を図る。

２　調査の対象学年，学級等

(1)　県内すべての小学校第５学年，中学校第１，２学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし，複式学級を有する学校においては，履修していない内容を調査から除外して実施する。なお，小・中学校における特別支援学級の児童生徒については，該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。

(2)　特別支援学校においては，該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学 校 種	学　年	実 施 校	調査児童生徒数
小学校（小学部）	第５学年	５６３校	１５，４０１人
中学校（中学部）	第１学年	２５３校	１５，２３７人
	第２学年	２５３校	１５，１３２人

＊　調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

＊　調査人数は，欠席等により各教科，設問によって異なる。（上記は最大値を示す。）

３　調査の内容

学力調査

ペーパーテストにより，調査対象教科の基礎学力の定着状況（当該学年の１２月終了程度までを範囲とする）について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校（小学部）】 第５学年　　・・・　国語，社会，算数，理科

【中学校（中学部）】 第１，２学年　・・・　国語，社会，数学，理科，英語

４　調査の実施時間

学力調査　小学校(小学部)　　４５分（調査票の配布・説明等５分，調査時間４０分）

　　中学校(中学部)　　５０分（調査票の配布・説明等５分，調査時間４５分）

５　調査の実施日

平成２２年１月１４日(木)・１５日(金)

６　調査の採点及び結果の集計・分析

(1)　各学校は，自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い，当該市町村教育委員会へ報告する。自校の調査結果については，保護者に対して説明責任を果たすとともに，今後の指導方法改善に生かす。

(2)　各市町村教育委員会は，管下の学校の調査結果を集計し，県教育委員会へ報告する。自市町村の調査結果については，自市町村の基礎学力の定着への取組に生かす。

(3)　県教育委員会は，調査結果を集計・分析し，県全体の「基礎・基本」の定着状況について公表するとともに，指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し，各学校に配布することにより，各学校の基礎学力定着への取組を支援する。